

「目的ではなく、目的を達成するための手段」

Anna Tereszko

私は完璧主義者です。私は何をやるにしても常に一番になりたいと思っています。しかし、完璧主義者は欠点をひとつ持っています。完璧主義者は一番になれない場合には、まったくそれをしません。これは私が持っている欠点です、というか、かつて持っていた欠点です。

私は10歳の時から日本語を勉強しています。マンガ日本語学校の子供クラスで一番になるのは難しいことではありませんでした。しかし大学に進み専門をふたつ持つようになってからは、日本語の学習時間が少なくなりました。それで私は一番になる代わりにクラスの中で中ぐらいか、ビリになるほど成績が落ちてしまいました。そのため私はもう日本語はあきらめたいと思いました。長く通ってきた日本語学校をやめるほどあきらめたかったのです。

「一番になれないのに、どうしてがんばり続ける必要があるのか？」と自分に問いました。しかし、日本語学校をやめたのにまだ一人で勉強を続けています。なぜでしょうか？私は高校生の時、日本でホームステイを経験したので、日本には友達やホストファミリーがいて、いわば私の第二の生活があります。それは全部日本語のおかげです。私の最も親しい日本人は千賀子さんといいます。彼女は、米国で働いていて、英語をとてとても上手に話す日本人です。私と私の彼と千賀子さんの三人で会った時に、私の彼氏は当然日本語はできないので英語で話しました。しかし、私と二人だけで話すときはいつも千賀子さんは日本語で話しましょうと言います。ある時、「なぜですか？」と千賀子さんに聞きました。すると千賀子さんは「日本語で話すとき英語よりお互いに深く理解していると感じるんです。心の壁はすっかりなくなります。特に感情に関する話の場合はね。」と笑って答えました。

今、思うと千賀子さんが言ったことがしみじみ分かります。それぞれの言語は独自の歴史と性質を持っているからその国の背景知識がないと根底からその国のことを理解することはできません。それを理解するためには、理屈ではなくそれを心で感じるべきです。私たちは言葉を心で感じるべきなんだと思います。感情について話す場合はことさらです。日本文化における感情は、ポーランドのものとは違いがあります。その良い例は、ポーランド語にはない甘えの感情です。そのような奥底にある気持ちを感じとれば、人と心を通わせることができるようになります。漢字や日本語の単語の持つ深い意味を知っていれば、コミュニケーションは格段に楽になります。

外国語を学ぶことは言語だけではないということが今本当によくわかってきました。私と日本語とのかかわりはこれからも永遠に続くと思います。日本語を心で感じる喜びを知ってからは、常に一番にならなくてはという自分の野心を制御することができるようになりました。私は頭の中の漢字の数を増やすのではなく、覚えた漢字を最大限に使用する機会を増やしたいのです。

今の私の目標は日本語をうまく話して一番になることではなく、日本語を使って人々とふれあうことなんだと思います。